

進学経験談

南紅花

私は南紅花（ナンコウカ）と申します。2011年7月に黒龍江大学を卒業して、10月に日本へ入国し、亜細亜友之会外語学院で一年半勉強しました。2013年4月から東京外国語大学で研究生として半年間勉強を続け、2013年10月の大学院入学試験に合格しました。

東京外国語大学大学院の入学試験は、秋と冬二回があります。秋試験は筆記試験が大事で、冬試験は面接が大事だと言われています。しかも、冬試験には、卒業論文の提出が必要となっているので、東京外国語大学を目指しているのならば、秋入試をお勧めします。

さて、私が受けた言語文化専攻の言語情報コースの試験について、少し話したいと思います。

言語情報コースの秋試験は、言語科目、専攻科目（論述）と専攻専門科目の三つの試験科目があります。（冬試験は秋試験と試験科目が少々違うところがありますので、注意したほうが良いと思います。）

言語科目は、日本語の試験なので、N1に合格した学生にとっては、そんなに難しくないと考えます。最後のまとめの問題だけ気をつければ大丈夫だと思います。

専攻科目（論述）と専攻専門科目は、大体言語学、音声学、音韻論、日本語学、日本語教育学、古文などの分野から出題されるそうです。概念問題は、紛らわしい定義などを間違いなく、しっかり覚えた方が良いでしょう。幅広い領域の問題が出る可能性がありますので、例を使いながら説明できるくらいまで、ちゃんと覚えることが大切です。音声学については、子音だけではなく、母音まで問題にされることがあるので、その分け方と特徴などの基本的な知識を覚えておいた方が良いでしょう。音韻論の問題でも、相互分布など、基本的な知識が必要となっています。

外語大の大学院の入試は、結構難しいと言われています。だからといって、合格が不可能ではありません。しかし、まず、研究生で入学して、半年ほどの時間をかけて、学部の授業を受けながら、基礎知識をしっかり学んでから、院生の入学試験を受けるのもいい選択だと思います。

研究生の入試は、指導教員によって、筆記試験が必要となることもありますので、十分ご注意ください。筆記試験は、研究計画書や参考文献にした論文について聞かれる問題が多いので、自分の研究計画書はもちろん、参考にした論文（ひとつだけでもいいので、その研究内容、研究方法、研究結果について）もしっかり覚えておいたほうが良いでしょう。

面接は、研究計画書について聞かれます。ですから、研究計画書をちゃんと書いたほうが良いでしょう。自分だけでできることも大事ですが、自分は何ができるというところがもっと大事だと思います。自分の自信、まじめさ、やる気などは面接でいい点数を取れるポイントだと思います。だからといって、研究内容が重要ではないというわけではありません。

そして、入試を受ける前に、教授とコンタクトを取れるならば、遠慮なく教授にメールを出してみてください。

最後に、皆さんに自分がとてもいい勉強になった本を2冊紹介したいと思います。

- ① 庵功雄（2012）『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』第2版 スリーエーネットワーク
- ② 斉藤純男（2013）『言語学入門』三省堂

日本語教育入門の本を読んでおいても、力になると考えます。

最後に、皆さんがいい成績を取れるように祈っています。